

談話室



「I」はヒゲを剃れるか？

それとも他の文字も皆ヒゲ付きにするか？

関 榮 四 郎†

最近あるカナダ人から本学会宛てに手紙がきました。その趣旨は、コンピュータのディスプレイやプリンタに表示されるローマ字には“I”だけにヒゲ(SERIF)があり他の文字にはヒゲがないが、(元)グラフィックアーティストでありスコットランドで教育を受けたこのカナダ人には非常に奇異に見える。ローマ字の伝統を尊重して、すべての文字をヒゲ付きにするか、すべてヒゲなしにするかのどちらかにしてほしい、というものです。

そのつもりで英文の雑誌を見ると、ページによってあるいは記事によっていろいろな活字が採用されていますが、まとまった記事の中で採用されている活字はこのカナダ人の指摘のようにすべてヒゲ付きかすべてヒゲなしかのどちらかで、混同はないようです。(図参照) ヒゲ付きとヒゲなしのローマ字が混じるのは、いうなれば漢字の明朝体と清朝体が混じるようなもので、それを母国語の文字として教育された人には耐えられないのでしょうか。もう一つ、この人はローマ字の幅(SPACING)のことも主張しています。すなわち、ローマ字の幅はそれぞれ違うのが当たり前、というか違ってよいので、現に違う幅の字が打てるタイプライタもあるとのこと。 (“I”に不要なヒゲを付けるのは、それによって活字の幅を他のものと合わせるためであると思込んでいるふしがあります。)

今までは“I”と“l”との区別をするなど技術的

† 本会編集担当理事 三菱電機(株)情報電子研究所

VWXYZ abcdef
EFGHIJK

ヒゲ付き活字の例

DEFGHIJ

ヒゲなし活字の例

IF YOU LIKE

APARTMENT INCLUDING

“I”だけにヒゲのあるコンピュータの出力文字

理由でやむをえず“I”だけにヒゲを付けたのでしよう。最近の傾向をちょっと調べてみましたが、あるメーカーのレーザプリンタにすべてのローマ字にヒゲが付いているものがありました。技術の進歩は限りありませんから、このようなプリンタないしディスプレイが徐々に増え続け、コンピュータ出力のすべてのローマ字にヒゲが付くのもそれほど遠い将来ではないような気がします。(昭和62年2月19日受付)